

■題名の意味

予はこれより少々変わった「ミニ自伝」の抄録をなさんとす。恐らくは他にあまり類はあるまじきかと思わる。それはとにかく、要は「i f」すなわち「もしあの時、ああならなんだとしたら、その後の運命はかなり違ったものになりしならむ……」という観点より、我が生涯を再点検せしむとの企てなり。すなわち我が一生をいくつかの分岐点というか、分かれ道において、「もし(i f)あれと反対だったとして、その後の予が運命はいかに成りしならん」と考えてみようとする試みなり。

では何故、かかる常人のなさぬ奇妙な事をしようとするかというに、それは予にとりては、我が一生は総てこれ「神天」の御導きなりし、との感慨の切なるものあるが故なり。それ故かかる観点より我が一生を大観して、一つ一つの要点につき再点検を試みんとするなり。かくして予のこの地上の短くもまた長かりし一生のすべてが、「神天」の導きなりしことを、今や予命いくばくもなき身なれども、改めてここに確認、確信せんとするなり。【解説】この原稿は森信三先生続全集8巻に所収されているが、カタカナ文であるため、現代人には多少読み辛い嫌いあり。よってここに仮名交じりに改めて供する試みである。この稿は昭和57年12月29日に筆を執られたとの後書きがあり、森信三先生87歳の最晩年のことであった。(二繁)